

川俣町

農業委員会だより

第22号

平成30年2月15日

川俣町農業委員会

川俣町字五百田30

☎566-2111

平成三十年度

川俣町の農地利用の最適化に関する施策について

東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所の事故からまもなく七年が経過します。本町の農家では、稲作や野菜等の農産物の風評被害などにより生産が減少し、有害鳥獣被害の増大により農業への意欲も低下しています。本町農業委員会は、この危機的

意見項目

一、原発事故からの復旧、復興への施策

- 一、農地・林地の保全について
農業再生に向けた取り組みとして、東京電力・国に対し、地力増進対策等必要な措置を責任をもって行うよう働きかけること。
- 二、安全な農林産物の放射能対策について

二、継続的施策

- 一、国内対策等の強化について
TPPやEPA等の諸外国との国際貿易交渉が進展しているが、国内の農業が持続的に発展していくことができるよう万全な措置を講ずるよう国に働きかけること。
- 二、担い手の育成確保・集落営農推進対策について



平成二十九年 福島県下農業委員会大会

◆農業委員会主導のもと豊かな農業・農村を取り戻そう！

◆担い手の育成・確保で地域農業を将来につなげよう！

◆地域住民に信頼される農業委員会活動を展開しよう！

◆経営とくらしに役立つ！全国農業新聞・全国農業図書

を大会スローガンに、平成二十九年県下農業委員会大会が昨年十一月十四日「パルセイりざか」で開催され、本町農業委員十六名が参加いたしました。

水年勤続農業委員(十二年以上)の表彰があり、本町の嶋原秀雄会長・菅野儀政職務代理・安田時雄委員の三名が表彰されました。

議案第一号

平成三十年度政府農業予算の確保について

- 一、東日本大震災並びに東京電力福島第一原子力発電所事故災害からの復旧・復興について
- 二、諸外国との経済連携について
- 三、来年度の農業政策について

議案第二号

改正農業委員会法の下での活動強化に関する申し合わせ決議について

- 一、農地等の利用の最適化について

平成29年度 福島県下農業委員会大会



平成二十九年産 水稲作況調査報告

農業委員会では、昨年九月十五日に水稲の作況調査を実施いたしました。調査方法は、平年作と比較できるように定めてある定点圃場を中心に十七圃場を調査いたしました。八月の低温・日照不足の影響などにより、反収は昨年と比べると低い十アール当たり四一八キロの調査結果となりました。



農地利用状況調査報告

農業委員会では、昨年十一月十五日に福島県及び一般社団法人福島県農業会議の同行のもと三班に分かれ、山木屋地区以外の農地について、農地の利用状況調査を行いました。年々、耕作されない田畑が増えている現状にあり、どのような対策を講ずるべきか、本町の地形などを考えると、今後の課題は大きいと思います。

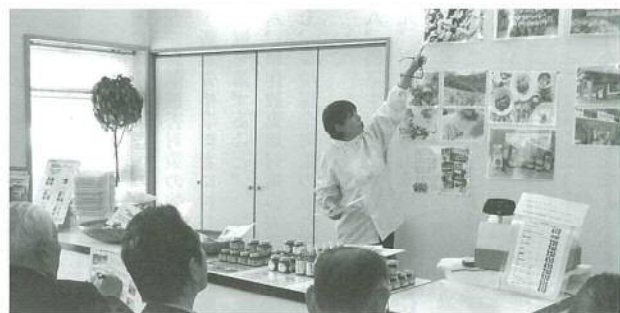
農業委員会視察研修を終えて

十月二十三日、台風二十一号が福島県へ接近した朝、本町には大きな被害の恐れがないと判断し、二泊三日の研修へ出発しました。荒れる日本海を見ながら、最初の研修地富山県立山町の農事組合法人「いこいの杜」へ到着、法人による農業の六次産業化について、生産販売、農作業の受託請負、加工品の販売の取り組み等の説明を受けました。経営の多角化、作期の分散、みそや里芋コロッケなどの自社生産と、そば・うどんの受託生産、農への雇用や新規就農者



を採用するなど地域農業に積極的に取り組んでいることを研修しました。

二日目は、富山県高山市の高山朝市を視察、その後、「高山市農業委員会」にて、農地対策・担い手対策について説明を受けました。高山市は海拔五百七十三メートルと阿武隈山系と同じ位の高さにあり、野菜、畜産、水稲、果樹等が主な農産物となっています。中でも飛騨牛は有名で、他にトマト、ホウレン草が多く作付けされています。農業委員会として、新規就



農者の確保と育成を重点に取り組んでおり、短期・長期就農体験の受け入れ、研修支援等についての説明を受けました。

次に郡上市の「株式会社明宝レディース」を訪れました。明宝レディースが取り組んでいる、「明宝トマトケチャップ」の六次化産業、明宝レディースのあゆみについて説明を受けました。昭和三十三年当時、女性だけ十九名で生活改善グループとして発足、米の減反が進み荒廃する農地を利用してトマトを栽培したのが始まりで、栽培が盛んになると供給過剰が生じたり、規格外のトマトが多くなり、なんとかしようと始まったのがケチャップ作りの原点のことです。その後、幾度かグループ名を替え、平成四年に株式会社明宝レディースを設立し今に至っています。

農地にかかる許可申請について

農地の売買や貸し借り、盛り土、また農地に住宅を建築したいなど農地を転用したい場合は、申請手続きや届け出が必要です。

農地に関することや農業者年金などについてのご相談については、農業委員会事務局へお問い合わせください。

平成29年度の12月までの農業委員会への農地に係る申請件数は、次のとおりです。

	農地の貸借や売買	所有地の転用	所有地以外の転用	農地の利用権設定	非農地の申請	農地改良届(盛り土)
4月	8	0	4	2	3	1
5月	5	2	2	2	0	4
6月	0	1	5	3	0	1
7月	2	0	4	0	1	0
8月	0	0	1	0	0	1
9月	5	0	0	2	0	1
10月	1	2	3	0	0	1
11月	2	1	0	2	2	1
12月	7	0	0	19	2	2
合計	30	6	19	30	8	12



農事組合法人「いこいの杜」も株式会社明宝レディースも、法人化したきっかけは、販売額が一千万円を超え、経理面の明確化、社会保険等の必要性からとのことでした。この研修で学んだことを、川俣町の農業改革への一助となるよう取り組んで参ります。

国民年金に加入している農業者のみなさまへ

農業者年金は、六十歳未満の国民年金第一号被保険者(国民年金保険料納付免除者を除く)で、年間六十日以上農業に従事している方は、ご加入いただけます。詳しくは、農業委員会事務局までお問い合わせください。



あとがき

農産物の加工・販売を行う農業の六次化産業を、本町でも「シャモ」以外のものも進めて行きたいものです。

TPPの大筋合意やEU、日米FTAなどで本町の農業は良くなるのか。今年から米の減反の取りやめで米の価格が下がり、農家がやっていけないのか。鈴木宣弘氏(東京大学教授)の話では、日本農業への打撃は大きいとのこと。アンズリウムを主とする花きの栽培に挑戦する新規就農者を、皆で応援したいと思っています。

菅野 宗義
村上 源吉
安田 時雄
菅野 吉人